



地域円卓会議 in 久米島

県内の島嶼地域と本島北部地域5カ所における若者の定住と働き方を考える

実施報告書

日 時： 2016年3月3日（木）18:00-20:30
場 所： 具志川農村環境改善センター
主 催： 国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学

報告書作成
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議



■日 時：2016年3月3日（木）18:00-20:30

■場 所：具志川農村環境改善センター

■着席者数：7名（論点提供者、司会、ファシリテーター含む）

■来場者数：33名（行政・大学・企業・NP0・市民）

■主 催：国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学

■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄、
NP0 法人まちなかわくわく研究所

■お問合せ：国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティ
キャンパス事業本部

論点提供

濱元 尚哉 氏（久米島町役場 企画財政課）

県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える-久米島編

本事業は琉球大学・名桜大学が起点となり、大学が地域課題の共有と解決に向けて参画するという取り組みの一つとして開催されます。会議は、県内5カ所（国頭村・大宜味村・久米島・石垣島・宮古島）で開催され、会議で議論された課題の、地域ごとの共通点と独自性を認識し、地域内で共有することで、その課題を地域全体で解決に導くチーム作りを目指します。さらに他の地域との情報共有は、地域間連携のきっかけになることも期待されており、地域同士の連携を大学が寄り添うことで課題解決の相乗効果を上げたいと考えています。

センターメンバー



濱元 尚哉
久米島町役場
企画財政課



嘉手苺 一
久米島商工会
商工会長



宇江城 久人
FM 久米島



瀬名波 出
琉球大学
工学部准教授



前里 貴史
琉球大学
法学部3年

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 久米島町の人口 7,761 人（速報値）。ピーク 1955 年（昭和 30 年）：17,000 人。戦後の頃は 16,000 人程。
- 久米島には 32 の字がある。人の住んでいない字が 1 つある。人口をキープしている字、減っているところ字がある。
- 32 字の内、準限界集落 16 字（55 才以上が 50%以上）
- 高齢化率 25.5%（集落によって異なる）。
- 人口は年 100 名程減少している。
- 高校卒業後に島を出る。今年は 75 名卒業生の内 4 名が島内に残り、島内で就職が決まっている。
- 商工会 500 会員（法人・個人）。
- 観光業は、リゾートホテル 3 ヶ所ある。製造業は、久米仙、製糖工場など。
- 1,300 万かけて楽器をそろえている。高校が保管。
- 国立大学に進学したら授業料 1/2 補助がある。

評価の提供

- 三次産業に期待。加工（農業、水産業など）、高付加価値の商品開発が期待される。
- 離島は安心安全な環境をつくりやすい。離島ならではのメリット、チャンスにつながるものがある。
- メーカー企業多い。他の地域にはみられないものづくり系の企業が多いのも特徴である。

事例の提供

- 琉球大学のプログラムとして「知のふるさと納税」がある。久米島出身の大学生が、島の子どもたちと交流をもつ。
- 久米島高校。県外から 14 名受け入れしている。2016 年 4 月入学者は 6 名予定。
- 海洋深層水を活用したものづくり関連企業が伸びてきており、産業としても成長が期待できる。

視点の提供

- 移住について。U ターンは住む場所問題ない。新たに新規で来られる方に対しての対応の一本化が課題。
- 移住について、町の中に窓口としてプロジェクト推進室がある。移住の問合せは週間 1 件ペースでくる。
- 家を登録してマッチングするしくみも取り組んでいる。空家があるが仏壇あって貸し出しできないこともある。
- 現在、琉大 1～4 年生で島内出身者は 11 人いる。久米島に帰ってきたい、恩返ししたい、と考えているのではないかな。
- エンジニアとしてのキャリアのために外へ出るのはありえる。
- 技術力ある企業を通じて、また久米島にもどって来られる環境を整えば、人は戻ってくるのではないかな。
- 久米島の中では、業種によっては、人が足りていない。
- 島のこどもたちへの情報提供が必要。島に将来もどってくることを想定した情報をいかに提供していけるのか。
- 仕事の数はあるのに「就ける仕事がない」という声がある。情報発信が重要。
- 商売や人材交流などについて那覇市とどう付き合っていくか。移動に関してコストがかかる。船往復 6,000 円。4 時間かかる。
- 郷友会は各字ごとにある。郷友会と島との接点が少ない。郷友会に若者が減ってきている。存在の周知必要。
- 島を出た人がどこで、どんなキャリアを持っているのか情報を共有することが必要。
- 郷友会は、最初に出た先での助け合いとして存在していたが、新たな役割として島にもどってくるためのネットワークとして機能していく可能性があるのではないかな。
- 戻ってくるためのプラットフォームとしての郷友会の存在。
- 教育をサポートするしくみがあることで、島への関わりの動機づけにつながっているのではないかな。
- 大学として、生涯学習の場を提供、地域のニーズにこたえた人材育成とプログラムの開発をしていきたい。

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- **教育のサポート** 若者の教育をサポートする仕組みを構築し島への関わりをはかる。
- **島にもどる仕組み** 郷友会を始めとした出身者ネットワークの強化を図る。
- **高付加価値の商品開発** 高付加価値な商品開発を行い出身者の就職マッチングを行う。
- **第三次産業への期待** 観光業や 6 次産業化を行う企業間連携による新産業の創出。

■参加者によるサブセッション

「久米島に、若者にどう関わってもらおうか？」（原文のまま）

- ・ 島外出る前提→島に出て気づくこともある魅力。
- ・ 力をつけて、島にある魅力を見つけてもらい共有し課題解決。→島でやってみたいと思わせる。
- ・ 課題 種をまく必要がある。
- ・ 課題 情報をどう見せる、使えるか（島外に出た人）。
- ・ 来たいのだが、仕事がないから断念。→課題 仕事がないなら創る。人材づくり。
- ・ 求人情報の1本化。人材バンクの設立。
- ・ 賃金、社会保障。安定した昇給。社会保障の充実。
- ・ 若者がキャリアアップできる環境を提供。
- ・ その情報を異業種間で共有、発信。
- ・ 最先端のデータ分析技術を利用して問題解決。
- ・ 製造品質の向上。
- ・ 農業生産性の向上。
- ・ 沖縄本島の若者を本島内イベントに関わらせるための補助、支援（那覇で拠点を作る）。
- ・ 外からの視点を久米島の子たちに伝える。
- ・ 久米島のイベントに本島の若者を呼べるような仕組み
- ・ 久米島の良さを活かす。（情報発信）。
- ・ 高校生の進路と地域を結びつける。
- ・ 情報交換をもっとする。
- ・ 企業で人財育成を支援する（賃金、奨学金等）。
- ・ 教育が大事！
- ・ ICT で楽しい農水産業→若者移住、定住。
- ・ IT 機器に詳しい若者に新しい農業（技術）を提案してもらおう。
- ・ 農業（漁業）女子の増→男が集まる。→人口が増える。
- ・ インフラを整備する。生活インフラ、教育、保健医療、福祉、島内学校、総合支援事業、6次産業。
- ・ 次世代へつなぐ新しい考え方、新しい力。
- ・ IT 化。
- ・ ダイバーシティの力（女性参画）。
- ・ 久米島発であり国内最有力の産業である海洋深層水による一次産業の技術発展、革新を継続し、町の財政を若者の就業者の生活を支えるに支障無い段階まで向上させる足掛かりとしていく事。

若者の定住と働き方をテーマとした地域円卓会議 参加者アンケート集計

◆概要

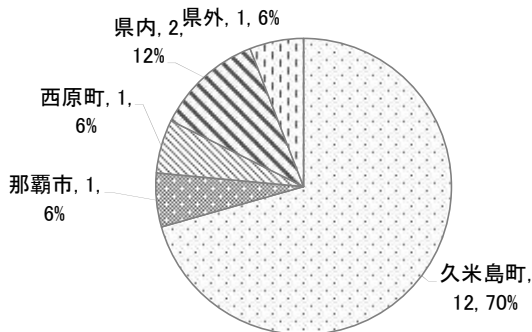
- ・日 時：2016年3月3日(木)18時～20時半
- ・場 所：具志川農村環境改善センター
- ・着席者：7名(司会、記録含む)
- ・参加者：33名(アンケート回収17名、回収率52%)

4. 満足度

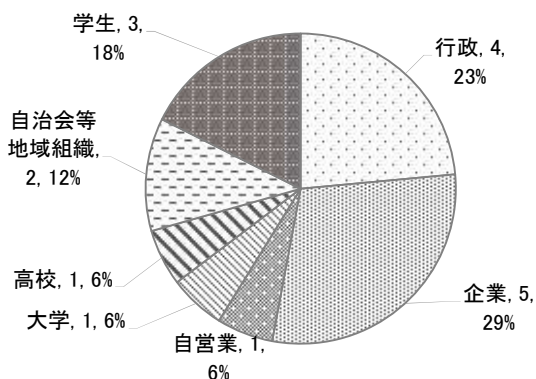
平均：4.00 (5点中)

5.満足	4.概ね満足	3.ふつう	2.あまり満足していない	1.不満足	未記入
7名	6名	3名	0名	0名	1名

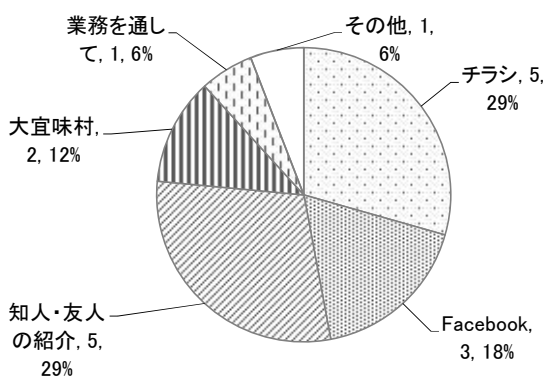
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度の理由

- ・必要だと思っていた会議だったので、参加できてよかった。
- ・今までのぼんやりとしていたイメージが形として現れた。
- ・いつもと同じ顔ぶれで、もっとキーマンとなる人が参加していない。
- ・高校生を含む色々な視点からの意見を聞くことができ、話し合うことができた。
- ・もっと多くの方面からの参加者がいた方がいい。
- ・問題を掘り下げて、そして解決策の提案あり良かった。
- ・久米島出身であり、なんとかしたいと思っていた。今回何か得ることができた気がする。

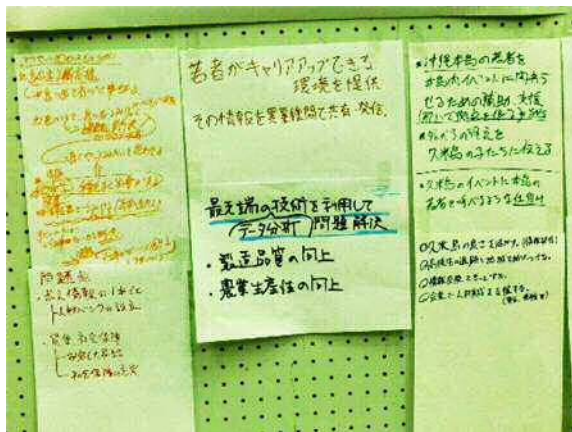
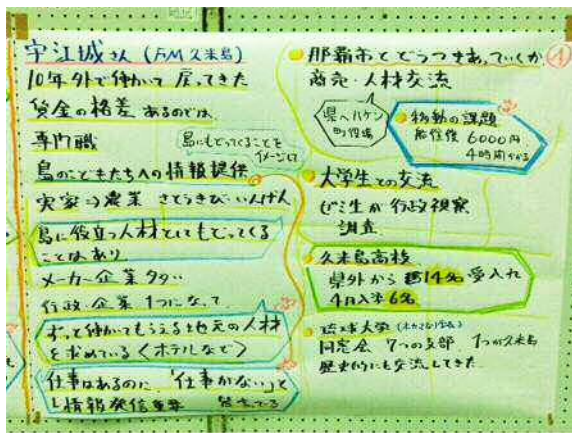
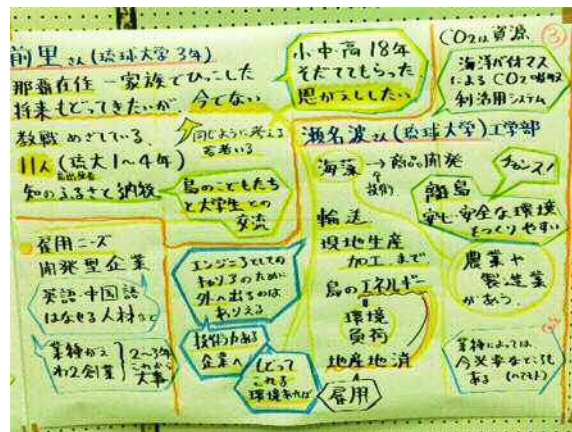
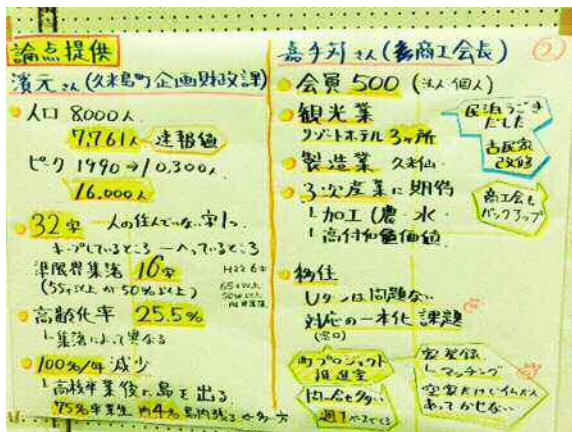
6. 印象に残ったこと

- ・郷友会との協力。
- ・高校と地域の企業を結びつける。
- ・企業による就学、就労支援。
- ・情報を共有できる機会や、集まって話ができる機会。
- ・島外から戻ってくる時の受け皿をつくるべき。
- ・「町営の学習塾」は地方における教育格差問題を解決するための1つの手段だと思いました。
- ・子供を育てる女性が働きやすい環境が魅力。
- ・ICTなどを活用した一次産業は面白い。
- ・このような機会があることが素晴らしいこと。

等

(写真) 会場の様子







テーマ

県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える
-久米島編

入場無料

どなたでも
参加できます

論点提供者 濱元 尚哉 氏 (久米島町役場 企画財政課)

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。

企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。

今回の地域円卓会議では、県内の島嶼地域と本島北部地域 5 カ所(大宜味村、国頭村(2/24)、久米島町(3/3)、石垣市(3/10)、宮古島市(3/11))における若者の定住と働き方というテーマで議論します。

2016 年 3 月 3 日(木) 18:00-20:30 (受付開始 : 17:30~)

会場

具志川農村環境改善センター
沖縄県島尻郡久米島町字仲泊 730 番地

対象

どなたでも参加できます。

参加申込方法

希望の方は、国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部まで、お名前・ご所属、ご連絡先（メールアドレス）を添えて、メール・FAX でお申し込みください。

e-mail : cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

TEL : 098-895-8019、FAX : 098-895-8185

- 主催 国立大学法人琉球大学、公立大学法人名城大学
- 協力 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ 国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部 (担当 安座間、大城、宮里 TEL.098-895-8019)

県内の島嶼地域と本島北部地域 5 カ所における 若者の定住と働き方を考える 地域円卓会議 開催のご案内

今回の地域円卓会議では、県内の島嶼地域と本島北部地域 5 カ所における若者の定住と働き方というテーマで議論します。

円卓会議とは

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。

テーマ

県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える -久米島編

<論点提供者> 濱元 尚哉 氏（久米島町役場 企画財政課）

本事業は琉球大学・名桜大学が起点となり、大学が地域課題の共有と解決に向けて参画するという取り組みの一つとして開催されます。会議は、県内 5 カ所（国頭村・大宜味村・久米島・石垣島・宮古島）で開催され、会議で議論された課題の、地域ごとの共通点と独自性を認識し、地域内で共有することで、その課題を地域全体で解決に導くチーム作りを目指します。さらに他の地域との情報共有は、地域間連携のきっかけになることも期待されており、地域同士の連携を大学が寄り添うことで課題解決の相乗効果を上げたいと考えています。

■タイムテーブル（予定）

18:00 オープニング ～あいさつ～
18:05 地域円卓会議について
18:10 【論点提供】「県内の島嶼地域の若者の定住と働き場所について考える-久米島編」
18:30 セッションⅠ（兼出席者紹介）
19:20 サブセッション（会場全体で意見交換） 兼 休憩
19:50 セッションⅡ
まとめ
20:30 終了予定

■着席者

・濱元 尚哉氏（久米島町役場 企画財政課）
・嘉手苺 一氏（久米島商工会 商工会長）
・宇江城 久人氏（FM 久米島）
・瀬名波 出氏（琉球大学 工学部准教授）
・前里 貴史氏（琉球大学 法文学部 3 年）

司会進行：平良 斗星氏（公益財団法人みらいファンド沖縄副理事長）
記録者：宮道 喜一氏（NPO 法人まちなか研究所わくわく事務局長）

- 開催日時 2016年3月3日（木）18:00-20:30（受付開始：17:30～）
- 会場 具志川農村環境改善センター（沖縄県島尻郡久米島町字仲泊 730 番地）
- 対象 どなたでも参加できます。
- 参加費 無料
- 定員 50 名

参加申込方法

参加費は無料です。どなたでも、この円卓会議を会場でお聞きいただくことができます。

ご希望の方は、国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部まで、お名前・ご所属、ご連絡先（メールアドレス）を添えて、メール・FAX でお申し込みください。

e-mail: cocplus@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

FAX: 098-895-8185

- 主催 国立大学法人琉球大学、公立大学法人名桜大学
- 協力 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ 国立大学法人琉球大学 琉大コミュニティキャンパス事業本部
（担当 安座間、大城、宮里 TEL. 098-895-8019）

参加申込書

所属	役職
ご氏名	
連絡先	

※ファックスでお申し込みの方はこちらの面をお送りください。